
マブラヴの世界に来たオタク

ユウスケ

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

マブラヴの世界に來たオタク

【Nコード】

N9684W

【作者名】

ユウスケ

【あらすじ】

先生に褒められ、上機嫌で帰ったら書いてしまった、練習作。

1話

おやおや？ここ何所だい？

昨日友人達と酒盛りし、べろんべろんになって、自宅のベットに眠った記憶がある。

それがなんで……。

なんで違う部屋に居るんだ？

俺の部屋には大量のマンガにゲームがあつた。

しかし、それらがなくなり、誰かの部屋になっている。

いや、むしろ俺が誰かの部屋にお邪魔したのかも知れない。

とりあえず、ベットのそばにある俺の靴を拾い玄関から外に出る。

幸い、家は留守だったようで、誰も居なかったようだ。

よかった。

不法侵入で警察にお世話……。

「なんだ……これは……？」

目の前に広がる町の光景は、まるで戦争か災害にでもあつたかのよう
うに荒れている。

おやおや、もしかして俺が寝ている間にとんでもない事態になつて
る？

そして、俺を混乱へと誘う物が……。

何でロボットがあるの……？

そう、まるで、マブラヴのゲームに出てくる戦術機をパクったよう
なロボが目の前に……。

ハハハハ、これじゃあまるで、俺がマブラヴの世界に来たみたい
じゃないか。

でも、このシュチュエーションって白銀だよね？もしかして俺は……。

自分の体を見下ろすが、白稜柊高校の制服ではない。
よかったような、残念なような。

もしかして、この家は白銀の家じゃないのか？

白銀の部屋なら、バルジャーノンのゲームがあるはずだ。

俺は部屋に入り、部屋を荒らす。

お、出てきた。

部屋を探すと意外にも簡単に見つけてしまった。

たしかこれで、冥夜をだまして・・・って、言い方が悪いか。
ごまかしたんだよな。

でも、これがガンダムだったらよかったのにな・・・。

ちなみに、生粋のオタである俺は青龍帝だったぜ！

正直俺としては青龍帝より赤龍帝の方が好き。

D×Dでかつよかったし、あのおっぱいドラゴン。

部屋を出て、忘れ物が無いか確かめようとすると、ボロボロの
廃墟のような部屋になった。

ふむ、確かに原作通りになった。

一回目はご都合主義か？

とりあえず、横浜基地にでも行くか・・・。

しかし、ここで気が付いた。

俺、場所しらねーじゃん。

ゲームの内容やイベントの日付けは、よく覚えているよ。

何回もプレイしたし、でも住所なんて出てくるわけないし、
場所なんて分かるわけが・・・。

来ちゃったよ、国連太平洋方面第11軍横浜基地。

意外と近くに立っていたんだね。

「おい、こんな所で何をしてるんだ？」

「外出してたのか？」

ゲートの見張りである、二人に声を掛けられた。

ああ、たしかこの二人は、涼宮姉の前に殺されちゃった人達だね・
・・。

とりあえず、鏡で顔はわからないけど、白銀設定みたいだし・・・。
白銀みたいになればいいよね？

2話

「なるほどね…」

現在、例のごとく執務室に來ています。

原作通りだね！

00ユニットとか因果律の話をしたらしんじてもらったYO！

それにしても夕呼さん美人だ・・・。

はあはあ。

「それで・・・あんたは、何が目的なの？国のため？それとも世界平和？」

！？これはまさか・・・。

あの名台詞が言えるのでは！

俺は真っ直ぐ夕呼さんの目を見る。

「耳の穴をかつぽじってよく聞いてください」

「？」

「俺は安い国や世界の為に戦った事は一度もありません」

「なんですって？」

おお！何か少し雰囲気が怖くなったぞ・・・。
やばかったかな？でも、ここまで来たんだから最後までやるぜ！！

「世界が滅ぼうと、国が滅ぼうと、昔からどうでもいいんですよ
は・・・。」

でも・・・今も昔も、俺の守るものは変わってはいません」

「それは・・・何か聞いてもいいかしら」

・・・。

すみません、考えていません。

やべえよ、かつこつけたけどあのセリフ何を守るか言ってねえもん。

まあ、ここでA - 01やB分隊や夕呼さんを含む皆の事だ！

とか言えればカッコいいんだけど・・・。

そんな事いえないツス、自分チキンです・・・。

「社に聞けば、解かりますよ」

「・・・なるほど・・・ね」

おや？何か考えている様子。

あ、赤くなった。

黒歴史でも思い出したのか？

・・・。

まあ、しばらくして俺の処遇の話になったんだけど・・・。

「前の世界と同じようにセキュリティパスの発行はしておくわ。
でも・・・。」

「でも、なんですか？」

「今回は訓練兵ではなく、私の元で少佐として働いてもらっわ」

「なぜですか？」

おや？まさかここで史実とは違う展開に……。疑問に思ったので夕呼さんに聞いてみた。

「訓練兵は今更だろうし、訓練なんてしてないでそれなりの階級で、早めに働いてもらった方が私の役に立ちそうだからよ」

「そうですか……」

なるほど、確かにその方が効率がいいかもしれない。

「ま、後は貴方しだいよ。せいぜい私を失望させないように頑張んなさい。」

「了解しました」

―夕呼視点―

白銀 武

私の目の前に現れた因果律量子論を実証した人間。見た目は207衛士訓練小隊の連中と歳の変わらないガキ。

「こんな時に、まさかあんな存在が来るなんて……」

チャンスかそれとも破滅へのプロローグか・・・。

『A - 01やB分隊や夕呼さんを含む皆の事だ!』

ふ・・・、この天才である私を不覚にも、ときめかせたのだから最後まで責任をもちなさい。

私はあいつが出て行った扉を見た後、00ユニットに辿り着くための資料をあさり始めた。

3話 御剣 冥夜

―白銀視点―

夕呼さんと別れた俺は、

現在、受け付けのようなところで部屋のカードキーとカード状の身分証明書

のようなものをもらった。

一緒に貰った基地の見取り図をみながら、部屋を目指して廊下を歩く。

さて、夕呼さんに俺次第と言われたが・・・どうしたものか。

この後の事を考えつつ廊下を右に曲がろうとしたら・・・。

ドン

「あ、すみません」

おっと、考え事をしていたら誰かとぶつかってしまったようだ。気おつけないと・・・って!!?!

「いえ、こちらこそ失礼を・・・急いでおりました故」

俺はぶつかった女の子を凝視している。

だって、まさかこんな形で出会うとは・・・。

「あの・・・私の顔に何か・・・?」

御剣 冥夜。

髪型に、この声、間違いない！
やべえテンション上がってきたぁー！！！！

「あの・・・」

はっ！いかんいかん、このままでは不審者のレッテルを貼られてしまう。

返事をせねば！

「いや、なんでもない。すまなかつたね、怪我はない？」

「はい、大丈夫です。私の事などより何か落ちましたよ」

そう言つて、床にあるカードを拾う冥夜さん。
手に持っていたカードが無い事からぶつかった時に落としてしまったようだ。

「！？」

おや？カードを見た瞬間に固まる。
もしかして変な事でも書いてあつたのかな？

「失礼しました！少佐殿！！」

「うお！？」

突然、冥夜さんが俺に対して敬礼してきた。
しかも少佐つて・・・あ、俺、少佐だった。

「いいよ、別に気にしてないから」

「はっ！ありがとうございます！！」

その後、身分証明のカードを返してもらい、自分の部屋に辿り着いた俺だった。

さて、明日はどうなることやら・・・。

あ、11月11日の事を夕呼さんに伝えるの忘れてた。

―冥夜視点―

まさか、あのような歳若い少佐が居ようとは・・・。

私は先程ぶつかった男・・・少佐について現在、自分の部屋で考えている。

よほど優秀な衛士なのか、それとも親か親しい誰かのコネなのか。

私はこの夜、自分と同じ年であろう少佐の事を考えながら眠りについていた。

3話 御剣 冥夜（後書き）

最近は本当に忙しいです。

医療関係の勉強をしているので実習やレポート、辛過ぎます。
ですが、冬休みに入れば・・・。

これからも応援、よろしくお願いします。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連「横書き」という考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n9684w/>

マブラヴの世界に来たオタク

2011年11月27日08時50分発行